

山添中 車いすバスケット体験

社会人チーム
選手が講演
総合学習の一環

山添村大西の村立山添中学校(岡田浩幸校長)で5日、車いすバスケットボールの社会人チーム伊丹スーパーフエニックス(兵庫県伊丹市)の選手2人による講演会が開かれ、参加した1年生18人が車いすバスケットを体験した。

同校ではパラスポーツへの関心を高め、一人ひとりの考え方や生き方を尊重し共に生きる力を培うことを目的に、総合学習の一環で同講演会を毎年実施している。

同チームの堀内翔太さん

(33)は大学4年生の時、ケガによる病気が原因で右足を切断した。



車いすバスケットボールを体験する山添中の生徒たち。5日、山添村大西の村立山添中

またチームメイトの斉藤貴大さん(32)は高校生の時、熱中症による発作で自宅の窓から転落し神経断絶により下半身が動かなくな

った。二人は生徒らを前に自らの経験や日常生活、競技との出会いなどを赤裸々に語り、生徒の疑問や質問にこたえた。

その後は体育館で生徒らは5人ずつのチームに分かれ、1試合3分間で車いすに乗り実際に競技を体験した。

堀内さんは「障がい者との心の壁を取り除くきっかけにしてほしい。右足がないのは自分の個性、長所だと思っ

た。」と語った。山中愛瑛さん(12)は「腕の筋力がすごい。障がいがあってもあきらめない、強い気持ちで努力されているのを感じた」と話した。